表紙

新宿区移動等円滑化促進方針【概要版】

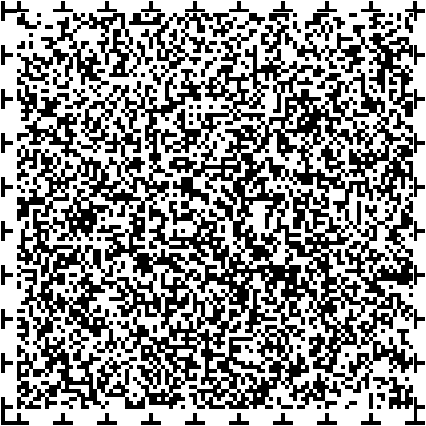
令和３（２０２１）ねん11月

新宿区

本概要版には、表紙、裏表紙、見開き左ページの左下、見開き右ページの右下に、１辺が２センチ程度の２次元音声コードであるUni-Voiceと、コード位置の認識のために切り込みを入れています。

これは、視覚障害者の方にも文字情報を行うことを目的とした情報ツールで、専用の読取機械をコードにあてることで、音声で文字情報が読み上げられます。

次のページの左下にも音声コードがあります。

目次

第１章、移動等円滑化促進方針の策定にあたって

１、移動等円滑化促進方針について、1ページ

１の１、策定の背景と目的、1ページ

１の２、移動等円滑化促進方針とは、1ページ

１の３、移動等円滑化促進方針によるユニバーサルデザインまちづくりの推進、1ページ

第２章、全体方針

１、移動等円滑化促進方針の位置づけ、3ページ

２、基本方針、3ページ

３、移動等円滑化促進地区・生活関連施設・生活関連経路の設定、4ページ

３の１、移動等円滑化促進地区の設定、4ページ

３の２、生活関連施設の設定、4ページ

３の３、生活関連経路の設定、5ページ

４、バリアフリー化促進に関する事項（移動等円滑化の促進に関する事項）、10ページ

第３章、地域別方針

１、四谷地域、15ページ

２、箪笥地域、16ページ

３、えのき地域、17ページ

４、若松地域、18ページ

５、大久保地域、19ページ

６、戸塚地域、20ページ

７、落合第一地域、21ページ

８、落合第二地域、22ページ

９、柏木地域、23ページ

10、新宿駅周辺地域、24ページ

第４章、移動等円滑化促進方針の実現に向けて

１、こころのバリアフリー等のソフト施策、30ページ

１の１、こころのバリアフリーの促進、30ページ

１の２、情報提供、31ページ

１の３、その他のソフト施策、31ページ

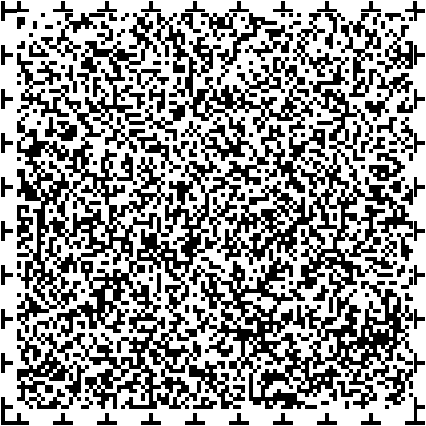
２、移動等円滑化促進方針策定後の進めかた、32ページ

２の１、移動等円滑化促進方針の周知啓発、32ページ

２の２、新宿区ユニバーサルデザインまちづくり条例に基づく手続きにおける関わりかた、32ページ

２の３、バリアフリー法に基づく届出制度、33ページ

２の４、移動等円滑化促進方針に基づく整備の確認、33ページ

１ページ目

第１章、移動等円滑化促進方針の策定にあたって

１、移動等円滑化促進方針について

１の１、策定の背景と目的

新宿区（以下、区）では、「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」に基づく、「新宿区交通バリアフリー基本構想（以下、基本構想）」を平成17年4月に策定しました。策定後は、鉄道事業者や道路管理者が基本構想に即して作成したバリアフリー化を実施するための計画である「交通バリアフリー特定事業計画（以下、特定事業計画）」について、平成19年3月にたかだのばば駅周辺地区、平成20年3月に新宿駅周辺地区で定め、鉄道駅・バス、道路、信号機のバリアフリー化をそれぞれ進めてきました。

特定事業計画策定後は、高齢者、全ての障害者及び妊産婦等、日常生活又は社会生活において身体の機能上の制限を受けるかたなど（以下、高齢者、障害者等）の当事者との意見交換など、継続的に取り組んできました。

基本構想及び特定事業計画に基づいて、新宿駅周辺やたかだのばば駅周辺を中心にバリアフリー化を進めてきたところですが、高齢化の進展や観光客の増加なども踏まえ、区内全域で面的なバリアフリー化を進めることが求められています。

このような中、平成30年に「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（以下、バリアフリー法）」が改正され、区市町村が移動等円滑化促進方針を定めることができる制度が創設されました。移動等円滑化促進方針では、道路や駅等の旅客施設、建築物等の具体的な施設のバリアフリー化事業の調整が難しい段階においてもバリアフリー化の重要性を打ち出すことが可能です。

これを受けて区では、区全体のバリアフリー化に関する「新宿区移動等円滑化促進方針（以下、促進方針）」を策定し、全ての人が安全に、安心して、かつ、快適に暮らし、又は訪れることができるまちの実現を図ります。

本ページに記載の１の２、移動等円滑化促進方針とは、１の３、移動等円滑化促進方針によるユニバーサルデザインまちづくりの推進は、次のページで示します。

次のページの左下にも音声コードがあります。

２ページ目

１の２、移動等円滑化促進方針とは

移動等円滑化促進方針とは、鉄道駅を中心とした地区や、高齢者、障害者等が利用する施設が集まった地区において、面的・一体てきなバリアフリー化の方針を区市町村が示すものです。

これを踏まえ、区全体において一層のバリアフリー化を図るため、促進方針では、施設と経路の連続性を確保することや、ソフト施策等、区全域における総合的なバリアフリー化の方針として示します。

１の３、移動等円滑化促進方針によるユニバーサルデザインまちづくりの推進

区では、区、区民、施設所有者等が協力・連携して、全ての人が安全に、安心して、かつ、快適に暮らし、又は訪れることができる「ユニバーサルデザインまちづくり」を推進するため、令和2年3月に「新宿区ユニバーサルデザインまちづくり条例（以下、UD条例）」を制定しました。

ＵＤ条例では、高齢者、障害者等の誰もが円滑に施設を利用できるよう、出入口、廊下、階段、便所等の項目について整備基準を定め、事前協議や届出等の制度により、個々の施設の整備強化をおこなっています。これに加えて促進方針では、そのうち主要な施設と道路をつなぐ経路等について、バリアフリー歩行空間ネットワーク化の実現を目指し、誰もが円滑な移動を確保できるよう面的・一体てきなバリアフリー化を図ることで、区全体において、ユニバーサルデザインまちづくりを一層推進していきます。

バリアフリー歩行空間ネットワークのイメージ

ＵＤ条例の整備基準の主な項目例

出入口の有効幅

廊下の有効幅や表面の仕上げ

階段の有効幅や手すり

便所の大きさや設備

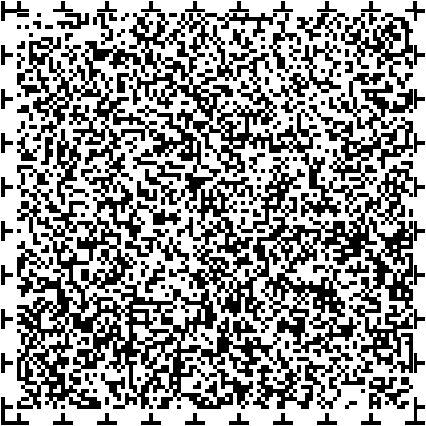
面的・一体てきなバリアフリー化の例

民間敷地等も活用した鉄道駅のバリアフリールートの整備

道路と敷地に段差のない一体てきな歩行空間の確保

道路から敷地まで連続した視覚障害者誘導用ブロック（以下、誘導用ブロック）の設置

沿道敷地内にも歩行空間やバスの待機場所の設置

３ページ目

第２章、全体方針

１、移動等円滑化促進方針の位置づけ

促進方針は、バリアフリー法及び国の定める「移動等円滑化の促進に関する基本方針」に基づき、新宿区総合計画を踏まえ、誰もが移動しやすく、利用しやすく、わかりやすいユニバーサルデザインまちづくりを推進するとともに、関連計画や条例等との整合を図り、総合的な区のバリアフリー化に関する方針として示すものです。

２、基本方針

区では、都市マスタープランにおいて、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催とその後も見据え、新宿に住む人、働く人、訪れる人など、誰もが移動しやすく利用しやすい快適な都市空間の形成に関する内容の拡充について示しています。

これを踏まえ、促進方針では、以下の基本方針に基づき取組みを進めていきます。

移動等円滑化促進方針の基本方針

区全域のバリアフリー水準の底上げを目指す

ハード・ソフトが一体となった取組みの推進

新宿の多様性を活かし、各地域の特性に応じたバリアフリー化の推進

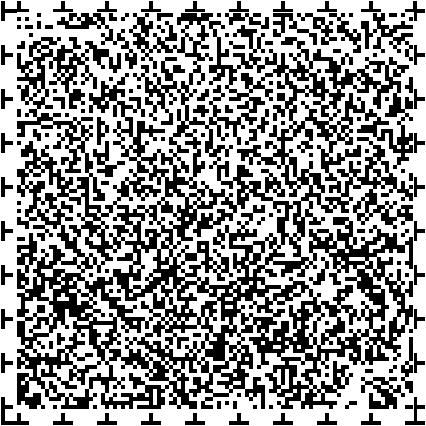
ユニバーサルデザインまちづくりの実現を目指す当事者参加の促進

こころのバリアフリーの取組み実践による区民等の障害理解・啓発の推進

多様な関係者の連携・調整による長期的課題への挑戦

継続的な取組みの推進と進行管理

次のページの左下にも音声コードがあります。

４ページ目

３、移動等円滑化促進地区・生活関連施設・生活関連経路の設定

３の１、移動等円滑化促進地区の設定

区全域をバリアフリー法に基づく移動等円滑化促進地区（鉄道駅の周辺や、高齢者、障害者等の利用者が多い施設の周辺でバリアフリー化を促進する必要がある地区）に位置づけるとともに、区のまちづくりの方針を示す都市マスタープランの地域区分と整合を図った地域別のバリアフリー方針を定めます。

３の２、生活関連施設の設定

生活関連施設は、バリアフリー法の定義を踏まえ、病院、図書館、飲食店、ホテル、劇場など、多数の者が利用する施設の中から、不特定多数の利用が想定される施設を対象とし、以下に示す考え方に基づき設定します。

高齢者・障害者等が多く利用する施設

公共的な施設で、広く一般に利用される施設

大規模な商業施設や宿泊施設等、一定規模以上の施設

設定の結果は、以下のひょうのとおりです。

表：生活関連施設の設定

１：旅客施設、５２施設

２：公共施設・郵便局、３７施設

３：福祉施設、４５施設

４：保健施設・病院、１８施設

５：文化・教養・教育施設、４５施設

６：商業施設、５０施設

７：宿泊施設、４６施設

８：都市公園等、１８施設

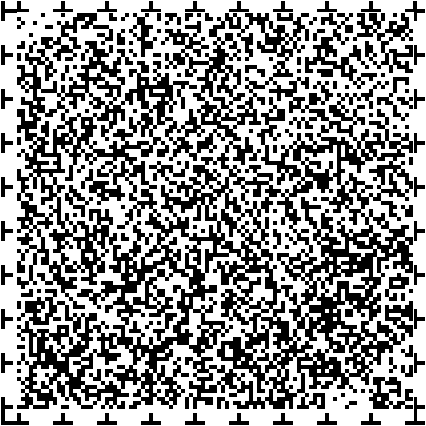
９：駐車じょう、５施設

１０：大規模建築物、８施設

１１：その他、６０施設

合計、３８４施設

商業施設や宿泊施設、都市公園等、大規模建築物については、バリアフリー法等で対象となる施設のうち、協議会における意見を踏まえ設定しました。なお、３８４施設の一覧は、２６ページ以降に記載しています。

５ページ目

３の３、生活関連経路の設定

区全域に鉄道駅や利用者の多い施設が分散し、多様な移動が想定されることを踏まえ、歩行空間ネットワークを形成する観点から、バリアフリー化すべき経路として、都市マスタープランに定める主要な道路（広域幹線道路・地域幹線道路・地区内主要道路・主要区画道路）は全て生活関連経路に設定することとします。

さらに、その他道路（区画道路）に面する生活関連施設へアクセスする経路については、主要な道路から派生させ、ネットワークの連続性に配慮して生活関連経路に設定します。

道路管理者は、生活関連経路のバリアフリー化を実施する必要があります。

また、新宿駅周辺の歩行者動線である地下経路も生活関連経路に設定します。

なお、国が指定する特定道路は全て生活関連経路に設定します。

経路種別ごとの重視する事業内容の例

広域幹線道路、地域幹線道路、地区内主要道路では、

交差点におけるバリアフリー整備（えんせきブロック整備、誘導用ブロック連続設置、巻込部の拡幅、エスコートゾーンの整備、音響式信号機の整備、青延長用押ボタン付き信号機の整備、平坦性確保、車止め設置）

沿道敷地と連携した歩行空間や滞留空間の確保

無電柱化の推進による安全で快適な歩行空間の形成

スムース歩道による歩道連続化

自転車通行空間の整備を重視します。

地区内主要道路、主要区画道路では、

歩行者通行空間の整備（ろそくたい幅の拡幅とカラー化、誘導用ブロック設置、ガードパイプ又は車止め設置）

沿道敷地と連携した歩行空間や滞留空間の確保

無電柱化の推進による安全で快適な歩行空間の形成

自転車通行空間の整備を重視します。

区画道路では、

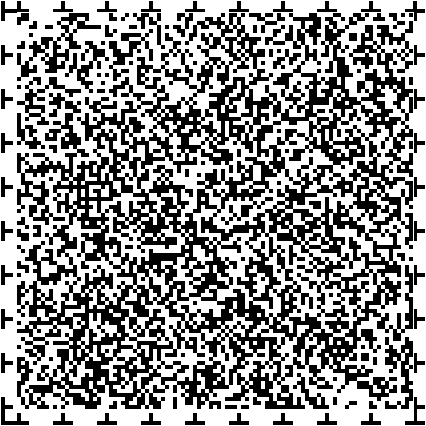
車両減速対策（きょうさく、カラー化）

交通規制による安全対策（ゾーン30、時間制限等）を重視します。

地下経路では、

誘導用ブロックの連続設置

上下移動のバリアフリー経路の案内充実を重視します。

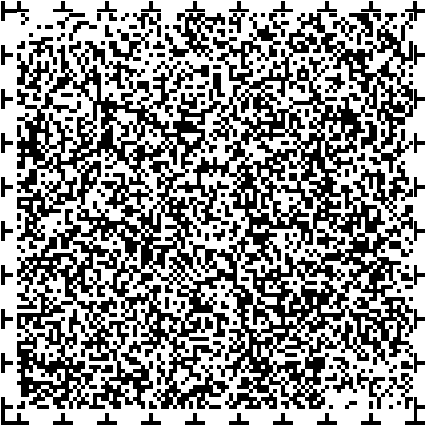
６ページ、７ページ目

このページでは、生活関連施設・経路の全体図を示しています。

全体図の詳細について、お問い合わせの際は新宿区、都市計画部、都市計画課までご連絡下さい。

電話、０３－５２７３－３５４７

ＦＡＸ、０３－３２０９－９２２７

８ページ、９ページ目

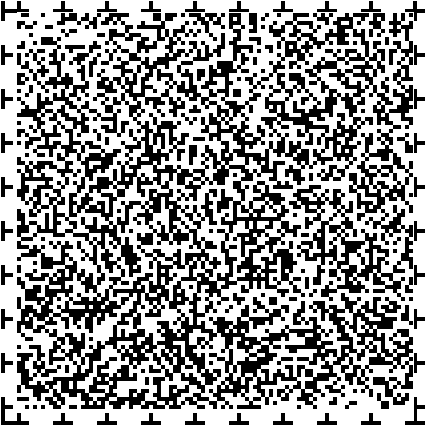
このページでは、新宿駅周辺の拡大図・地下通路バリアフリールートを示しています。

拡大図・地下通路バリアフリールートの詳細について、お問い合わせの際は新宿区、都市計画部、都市計画課までご連絡下さい。

電話、０３－５２７３－３５４７

ＦＡＸ、０３－３２０９－９２２７

次のページの左下にも音声コードがあります。

１０ページ目

４、バリアフリー化促進に関する事項（移動等円滑化の促進に関する事項）

バリアフリー化の促進のため、まちあるきワークショップや団体ヒアリング等を開催し、高齢者、障害者等の当事者の方々や、施設管理者の方々から多くの意見を伺いました。

それらの意見を踏まえ、促進方針では、生活関連施設や生活関連経路のバリアフリー化促進に向けた配慮事項として、面的・一体てきなバリアフリー化などの整備に関する事項について、バリアフリー法に基づき国土交通省が作成した「公共交通機関の旅客施設に関する移動等円滑化整備ガイドライン」や「道路の移動等円滑化整備ガイドライン」など、関連するガイドライン（以下、ガイドライン等）において、望ましい整備や目安として示されている内容と、ガイドライン等には示されていないが、高齢者、障害者等の当事者が配慮して欲しい内容に分けて整理しました。

施設の新設若しくわ改修や日頃の維持管理の際などに、施設管理者等がガイドライン等と併せて、可能な限りバリアフリー化促進に向けた配慮事項を踏まえ、必要に応じて隣接する施設管理者や道路管理者と事前に整備内容を調整し、連続的なバリアフリー化を図ることが重要です。

特に道路管理者は、道路改修等の有無に関わらず、配慮事項を踏まえたバリアフリー化を積極的かつ計画的に実施する必要があります。

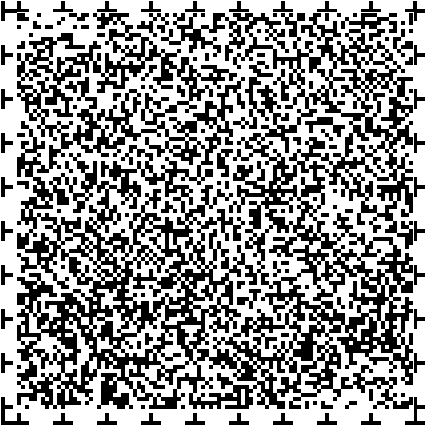
１、鉄道駅

１、ホームドア及びホームと車両の段差や隙間

高齢者、障害者等が安全で快適に移動できるよう、利用者の多寡にかかわらず区内全駅でホームドアの整備を推進する必要があります。特にホームドアを整備する際は、ホームの形状等を踏まえ、車椅子使用者等が単独で乗降できるよう、バリアフリー整備ガイドラインで示されているとおり、可能な限りホームと車両の段差や隙間の縮小にも取り組むことが重要です。

バリアフリー化促進に向けた配慮事項

ホームのかさ上げやくし状ゴムの設置等により、可能な限りホームと車両の段差や隙間を縮小する。車椅子使用者が単独で乗降しやすいように段差、隙間を縮小する整備の目安ちは、段差３ｃｍ、隙間７ｃｍである。（公共交通機関の旅客施設に関する移動等円滑化整備ガイドラインより）

１１ページ目

２、移動等円滑化経路（バリアフリールート・乗換ルート）

区内の鉄道駅では、全ての駅で各ホームから地上までのバリアフリールートが整備されており、いわゆるワンルート確保が実現しています。しかし、目的地によってはエレベーターの経路が遠回りであったり、乗換のために地上を経由する必要があるなど、利便性に課題が残る駅も多くあります。

国の定める「移動等円滑化の促進に関する基本方針」を踏まえ、高齢者、障害者等に迂回による過度な負担が生じないよう、可能な限り２ルート目のバリアフリールートの確保に取り組んでいく必要があります。また、周辺施設の状況を踏まえたバリアフリールートの最短化や、各鉄道間の乗換のバリアフリールート（以下、乗換ルート）の利便性向上に努めることも重要です。特に構造的に実現が困難なものについては、駅周辺におけるまちづくりや周辺の民間施設開発との連携により取り組んでいく必要があります。

バリアフリー化促進に向けた配慮事項

鉄道駅周辺におけるまちづくりや周辺の民間施設開発と連携し、鉄道駅における迂回が大きいでいりぐちや乗換の経路のバリアフリー化を進める。

職員は、地上を経由する乗換ルートなども含め、バリアフリー化された経路を理解し、利用者に適切に案内できるようにする。

特にバリアフリールートや乗換ルートがわかりにくい駅では、紙によるマップなどを配布できるようにする。

誘導サイン等の標識・案内設備は、当事者の意見を反映した継続的な改善を図る。

次のページの左下にも音声コードがあります。

１２ページ目

２、道路・信号機

１、歩道と車道の段差・横断歩道

バリアフリー化促進に向けた配慮事項

視覚障害者が夜間においても安全な横断ができるよう、周辺住宅地への影響を十分に考慮し、夜間早朝における横断歩道の音響式信号機の音響時間帯について配慮する。

歩道と車道間の段差については、車椅子等使用者、視覚障害者等の全ての人が安全に移動し、また歩車道の境界を認識できるよう、誘導用ブロックを設置した上で、エンタンが１ｃｍ程度のエンセキブロックの整備を推進する。

移動等円滑化促進地区（区全域）内の生活関連経路における交差点・横断歩道（特に横断距離が長い幹線道路）には、ゆとりシグナルや青延長用押ボタン付き信号機、音響式信号機の導入、エスコートゾーンの整備を推進する。

２、歩道のある道路

バリアフリー化促進に向けた配慮事項

工事中の道路では、安全に留意したう回路を設定し、誘導用ブロックやエスコートゾーンの断絶が起こらないようにする。また、交通誘導員などによる安全管理と人的支援による誘導を徹底し、道路管理者より工事実施者へ適切に指導する。

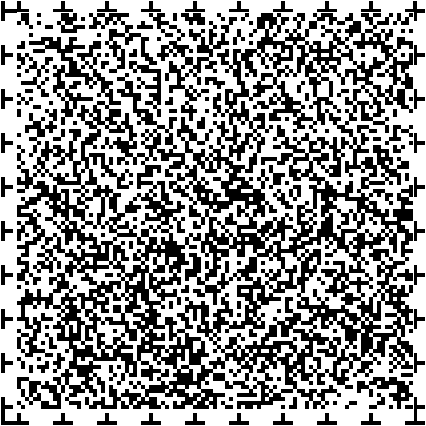
工事の仮復旧において、できる限り歩道のがたつきが起こらないよう配慮する。また仮復旧状態が長く続くことのないよう適切にゲンジョウ回復を行う。

自転車通行空間については、青色で着色した自転車専用通行たいによる整備を基本とし、通行たいの幅員が確保できない場合には、自転車ナビマーク・ナビラインにより通行たいとの連続性を確保することで、歩行者や自転車の通行の安全性を高める。

幅員が狭く交通量が多い歩道の植樹たいについては、低木を撤去してチュウコウボクの植樹ますに変更するなど、歩道の通行空間を確保する。

生活関連経路や他の道路においても、積極的に坂道における手すりやベンチ等の高齢者にやさしいみちづくりを進める。

路上駐輪施設を設置する場合は、大きく重たい子ども乗せ自転車の利用に配慮した設備を導入する。

１３ページ目

３、歩道のない道路

バリアフリー化促進に向けた配慮事項

ろそくたいの拡幅や路面ヒョウジによる速度抑制など、道路の実状に応じた交通安全対策を実施する。また、ゾーン３０などの交通規制による対策を活用し、歩行者が安全に通行できる環境を整備する。

一方通行化や利用者が集中する時間の車両通行止めなど交通規制により、歩行者の安全性を高める。

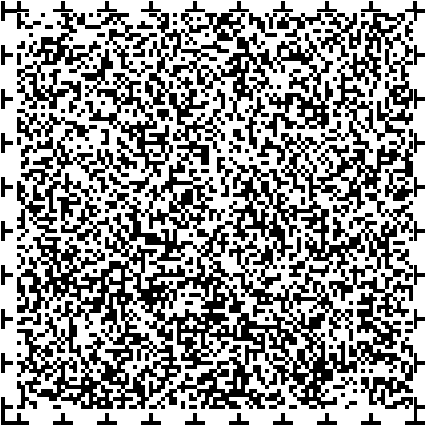
３、施設と道路の連携

バリアフリー化促進に向けた配慮事項

歩行空間として十分な幅員が確保できない歩道においては、沿道敷地内でのたてかえ等の際に、歩行空間やバスの待機場所を設ける。

人通りが多い歩道や坂道沿いの敷地などでは、高齢者や車椅子使用者等が休憩・退避できるような空間の確保や、手すり・ベンチなどを設置する。

次のページの左下にも音声コードがあります。

１４ページ目

４、視覚障害者誘導用ブロック

バリアフリー化促進に向けた配慮事項

設置箇所の床材・舗装との明度差あるいは輝度比を十分に確保するため、誘導用ブロックの両脇に暗色（黒・グレー）の縁取りを行う。なお、整備当初は輝度比が確保されていても、時間が経つと汚れや色あせで目立ちにくくなることに留意する。

経年劣化や破損等により機能が果たされないことがないよう、定期的なメンテナンスを実施する。

工事中の道路では、安全に留意したう回路を設定し、誘導用ブロックやエスコートゾーンの断絶が起こらないようにする。また、交通誘導員などによる安全管理と人的支援による誘導を徹底する。（道路管理者より工事実施者へ適切に指導する）（再掲）

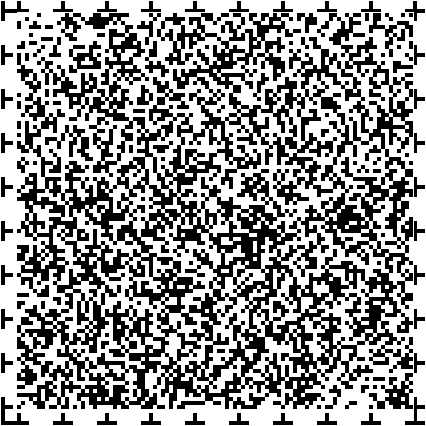
生活関連施設において道路接続部への誘導用ブロックが設置されている場合は、道路側においても施設に向けた誘導用ブロックを設置する。

クドウとトドウなどの管理区域境界では、関係者間で十分に協議・調整し、誘導用ブロックの連続性を確保する。

施設等で利用されることの多いステンレス製については、輝度比が確保されていても、反射により周囲との色の違いがわかりにくいことや、滑りやすい、鋲が抜け落ちやすいなど問題が多いことに留意し、黄色のものが望ましい。

誘導用ブロックを連続的に設置する場合、視覚障害者の方向感覚を阻害しないよう、不必要な曲がりはできるだけ避ける。特に、誘導用ブロックを設置する位置に、長さ６０ｃｍ程度以上のマンホール等がある場合、マンホール管理者等と調整し、マンホール上に設置するよう努める。長さ６０ｃｍ程度未満で、セコウや維持管理上困難な場合、マンホールをはさんで連続的に設置する。

歩道がない道路や狭い歩道・通路における誘導用ｘブロックの設置について、多様な利用者にとって使いやすく、かつ安全な歩行空間の形成のため、規格の半分の幅の誘導用ブロックの設置なども検討する。

１５ページ目

第３章、地域別方針

区のまちづくりの方針を示す都市マスタープランの地域区分（１０地域）と整合を図った地域別のバリアフリー方針を定めます。

１、四谷地域

方針図

四ツ谷駅周辺における利便性の高いバリアフリー化を目指します。

ホームから地上までの円滑なバリアフリールートの確保

利便性の高い乗換ルートの整備や、バリアフリールートの案内・人的支援の充実

国立競技じょう周辺における東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会後のレガシーも見据えたバリアフリー化を目指します。

車椅子使用者や視覚障害者等の更なる利便性向上のための、歩道や交差点におけるバリアフリー整備

鉄道駅や周辺施設と道路の一体てきかつ連続的なバリアフリー整備

国立競技じょう周辺の道路や鉄道駅、周辺施設の案内・誘導サイン、ルートマップ等の更なる充実

自転車通行空間の整備や自転車通行ルール・マナーの周知啓発

誰もが安心してあるける道路のバリアフリー化を目指します。

地区の主要な道路におけるバリアフリー整備

坂道における休憩施設や手すり等の設置

自転車通行空間の整備や自転車通行ルール・マナーの周知啓発

地区の骨格となる主要道路のバリアフリー化を目指します。

新宿どおりや周辺道路の歩道や交差点におけるバリアフリー整備

交通安全対策に基づく主要道路のバリアフリー整備

自転車通行空間の整備や自転車通行ルール・マナーの周知啓発

生活道路の安全かつ快適な歩行空間のバリアフリー化を目指します。

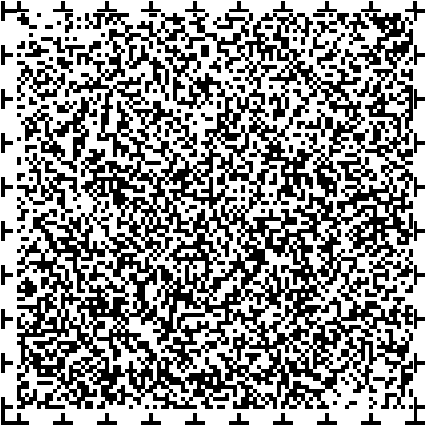
利用者の多い施設周辺の安全対策と連携した道路のバリアフリー整備

無電柱化の推進による安全で快適な歩行空間の形成

自転車通行空間の整備や自転車通行ルール・マナーの周知啓発

新宿三丁目駅周辺の方針については、２５ページの新宿駅周辺地域方針図（拡大図）を参照。

次のページの左下にも音声コードがあります。

１６ページ目

２、箪笥地域

方針図

まちづくりと連携した飯田橋駅周辺における利便性の高いバリアフリー化を目指します。

利便性の高い乗換ルートの整備や、バリアフリールートの案内・人的支援の充実

駅周辺におけるゆとりある滞留空間と地下通路や地上でいりぐち等の空間拡充

神楽坂地区における街並みや景観に配慮したバリアフリー化を目指します。

沿道施設と連携した坂道における休憩施設の設置や、敷地と道路の段差解消

沿道施設等によるサポートや歩道でのゆずりあいなど、こころのバリアフリーの徹底

幹線道路等を中心とした安全かつ快適な歩行空間のバリアフリー化を目指します。

大久保通りや牛込中央通りの歩道や交差点におけるバリアフリー整備

牛込中央通り沿道施設と連携した歩行空間の確保や、敷地と道路の段差解消

利用者の多い施設周辺の生活道路における安全対策と連携したバリアフリー整備

地区の骨格となる主要道路のバリアフリー化を目指します。

いちがやほんむらちょう周辺において、まちづくりと連携した歩行者に安全・安心な歩行空間の形成

無電柱化の推進による安全で快適な歩行空間の形成

歩道のない道路における安全対策と連携したバリアフリー整備

自転車通行空間の整備や自転車通行ルール・マナーの周知啓発

１７ページ目

３、えのき地域

方針図

公共施設や文化施設周辺におけるバリアフリー化を目指します。

利用者の多い施設周辺の生活道路における安全対策と連携したバリアフリー整備

駅や周辺施設、道路における案内・誘導サイン、ルートマップ等の更なる充実

坂道における休憩施設や手すり等の設置

自転車通行空間の整備や自転車通行ルール・マナーの周知啓発

都市計画事業等と連携した道路のバリアフリー化を目指します。

外苑東どおりや夏目ざかどおりなどの歩道や交差点におけるバリアフリー整備

工事中における安全な歩行空間の確保及び環境変化に関する情報発信の配慮

幹線道路等を中心とした安全かつ快適な歩行空間のバリアフリー化を目指します。

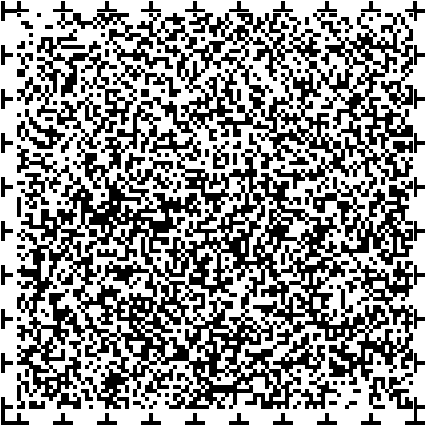
江戸川ばしどおりの平坦性確保など、歩道のバリアフリー整備

自転車通行空間の整備や自転車通行ルール・マナーの周知啓発

地区の骨格となる主要道路のバリアフリー化を目指します。

主要な道路や生活道路における安全対策と連携したバリアフリー整備

次のページの左下にも音声コードがあります。

１８ページ目

４、若松地域

方針図

女子医大どおり周辺における一体てきかつ連続的なバリアフリー化を目指します。

女子医大どおりの沿道施設と連携した歩行空間の確保や、敷地と道路の段差解消

女子医大どおりや周辺道路の歩道、交差点におけるバリアフリー整備

無電柱化の推進による安全で快適な歩行空間の形成

自転車通行空間の整備や自転車通行ルール・マナーの周知啓発

賑わいのある商店がい周辺におけるバリアフリー化を目指します。

沿道敷地と連携した敷地と道路の段差解消

生活道路における安全対策と連携したバリアフリー整備

公園や商業施設周辺におけるバリアフリー化を目指します。

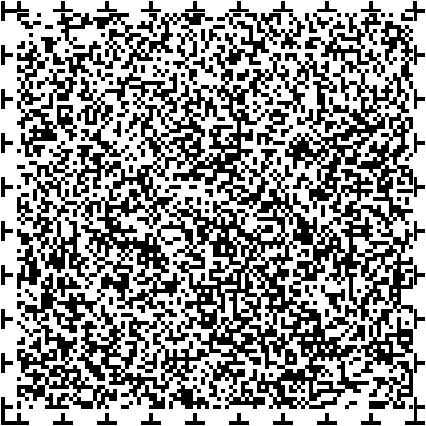
環状４号線の歩道や交差点におけるバリアフリー整備

高齢者や障害者等への配慮とこころのバリアフリーの推進を目指します。

福祉・医療・公共施設など、当事者の利用が多いエリアであることや坂道が多いことなどの案内・情報発信の充実

坂道における休憩施設や手すり等の設置

困っている人への声かけや手助けなど、こころのバリアフリーの徹底

１９ページ目

５、大久保地域

方針図

歌舞伎町地区における一体てきかつ連続的なバリアフリー化を目指します。

利用者の多い施設周辺の歩道や交差点におけるバリアフリー整備

宿泊施設周辺における人的支援の推進と外国語にも対応した案内の充実

高齢者や障害者等の通行を妨げる路上等障害物の撤去、移設

自転車通行空間の整備や自転車通行ルール・マナーの周知啓発

誰もが安心してあるける主要施設周辺のバリアフリー化を目指します。

鉄道駅や店舗など利用者の多い施設と周辺の道路における安全対策と連携したバリアフリー整備

高齢者や障害者等の通行を妨げる路上等障害物の撤去、移設

幹線道路等を中心とした安全かつ快適な歩行空間のバリアフリー化を目指します。

明治どおりやつつじどおりなどの交差点におけるバリアフリー整備

主要な道路や生活道路における安全対策と連携したバリアフリー整備

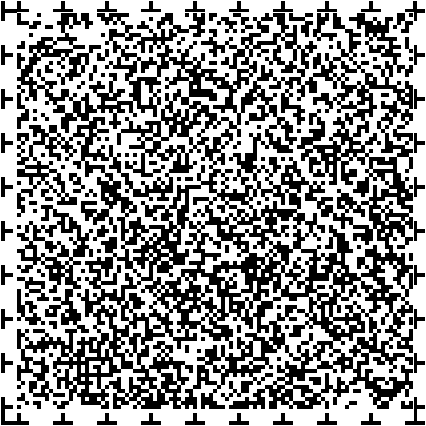
自転車通行空間の整備や自転車通行ルール・マナーの周知啓発

地区の骨格となる主要道路のバリアフリー化を目指します。

病院や教育施設など利用者の多い施設周辺の歩道や交差点におけるバリアフリー整備

自転車通行空間の整備や自転車通行ルール・マナーの周知啓発

次のページの左下にも音声コードがあります。

２０ページ目

６、戸塚地域

方針図

まちづくりと連携したたかだのばば駅周辺における利便性の高いバリアフリー化を目指します。

利便性の高い乗換ルートの整備や、バリアフリールートの案内・人的支援の充実

利用者の多い施設周辺の歩道や交差点におけるバリアフリー整備

坂道における休憩場所や手すり等の設置

福祉施設等が集積したエリアにおける一体てきかつ連続的なバリアフリー化を目指します。

利用者の多い施設周辺の歩道や交差点におけるバリアフリー整備

幅員が狭い生活道路における誘導用ブロックの維持管理と当事者参加による整備方法の検証

地下鉄沿道の敷地と連携した利便性の高いバリアフリールートの確保

沿道施設と連携した注意喚起看板の設置や、路上駐車対策などによる安心・安全な移動の確保

困っている人への声かけや手助けなど、心のバリアフリーの推進

賑わいのある早稲田どおり周辺におけるバリアフリー化を目指します。

沿道施設と連携した敷地と道路の段差解消

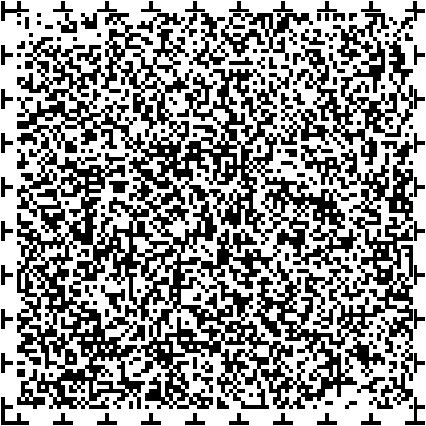
坂道における休憩場所や手すり等の設置

幹線道路等を中心とした安全かつ快適な歩行空間のバリアフリー化を目指します。

諏訪通りや周辺道路の歩道や交差点におけるバリアフリー整備

主要な道路や生活道路における安全対策と連携したバリアフリー整備

自転車通行空間の整備や自転車利用ルールの周知啓発

２１ページ目

７、落合第一地域

方針図

聖母ざか通り周辺における一体てきかつ連続的なバリアフリー化を目指します。

聖母ざか通り沿道の敷地と連携した歩行空間の確保や坂道における休憩施設の設置、敷地と道路の段差解消

聖母ざか通りや周辺道路の歩道や交差点におけるバリアフリー整備

幹線道路等を中心とした安全かつ快適な歩行空間のバリアフリー化を目指します。

新目白通りや山手通りの歩道や交差点におけるバリアフリー整備

自転車通行空間の整備や自転車通行ルール・マナーの周知啓発

商店がいにおける沿道敷地と連携した敷地と道路の段差解消

坂道における休憩施設や手すり等の設置

地区の骨格となる主要な道路のバリアフリー化を目指します。

かみおちなか通りの歩道や交差点におけるバリアフリー整備

無電柱化の推進による安全で快適な歩行空間の形成

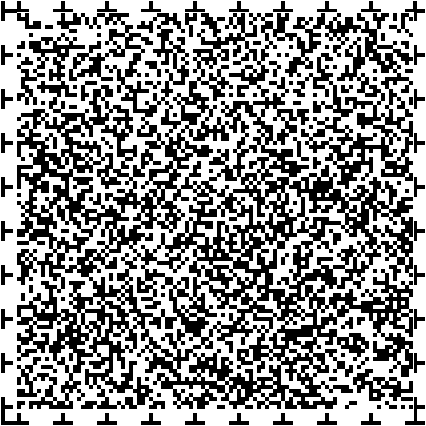
自転車通行空間の整備や自転車通行ルール・マナーの周知啓発

生活道路の安全かつ快適な歩行空間のバリアフリー化を目指します。

自転車通行空間の整備や自転車通行ルール・マナーの周知啓発

坂道における休憩施設や手すり等の設置

次のページの左下にも音声コードがあります。

２２ページ目

８、落合第二地域

方針図

中井駅周辺における利便性の高いバリアフリー化を目指します。

各事業者間の連携による連続的なバリアフリー整備

中井駅周辺のバリアフリールートの案内・人的支援の充実

商店がいにおける沿道敷地と連携した敷地と道路の段差解消

幹線道路等を中心とした安全かつ快適な歩行空間のバリアフリー化を目指します。

新青梅街道や周辺道路の歩道や交差点におけるバリアフリー整備

交通安全対策に基づく生活道路のバリアフリー整備

自転車通行空間の整備や自転車通行ルール・マナーの周知啓発

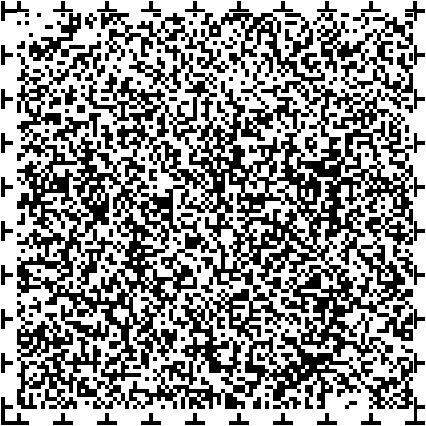
地区の骨格となる主要な道路のバリアフリー化を目指します。

中井駅前交差点部におけるバリアフリー整備

中井通りや生活道路における安全対策と連携したバリアフリー整備

自転車通行空間の整備や自転車通行ルール・マナーの周知啓発

坂道における休憩施設や手すり等の設置

２３ページ目

９、柏木地域

方針図

新宿おおガード周辺における一体てきかつ連続的なバリアフリー化を目指します。

幅員の広い道路の歩道や交差点におけるバリアフリー整備

沿道敷地と連携した歩行空間の確保や敷地と道路の段差解消

青梅街道を中心とした安全かつ快適な歩行空間のバリアフリー化を目指します。

鉄道駅や病院施設など、利用者の多い施設周辺の歩道や交差点におけるバリアフリー整備

工事中における安全な歩行空間の確保及び環境変化に関する情報発信の配慮

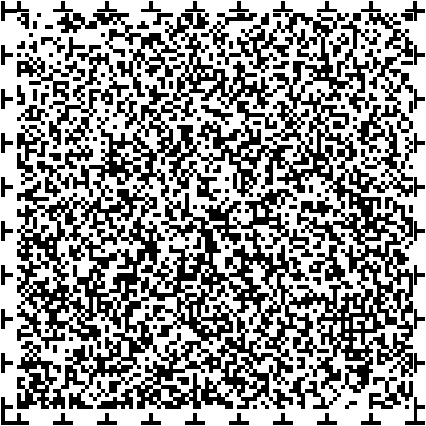
自転車通行空間の整備や自転車通行ルール・マナーの周知啓発

地区の骨格となる主要な道路のバリアフリー化を目指します。

交通規制に基づく安全対策と連携した主要な道路のバリアフリー整備

自転車通行空間の整備や自転車通行ルール・マナーの周知啓発

次のページの左下にも音声コードがあります。

２４ページ目

１０、新宿駅周辺地域

方針図

超高層ビルが林立する新宿駅西口周辺における一体てきかつ連続的なバリアフリー化を目指します。

地域内の階層移動のための民間建築物と連携した縦動線の整備やわかりやすい案内の充実

コウカイクウチにおけるバリアフリー化された休憩施設や災害時の避難場所としての利用

幹線道路の歩道や交差点におけるバリアフリー整備

歌舞伎町地区における安全かつ快適な歩行空間のバリアフリー化を目指します。

利用者の多い施設周辺の歩道や交差点におけるバリアフリー整備

沿道の敷地と連携した歩行空間の確保や敷地と道路の段差解消

高齢者や障害者等の通行を妨げる路上等障害物の撤去、移設

自転車通行空間の整備や自転車通行ルール・マナーの周知啓発

幹線道路等を中心とした安全かつ快適な歩行空間のバリアフリー化を目指します。

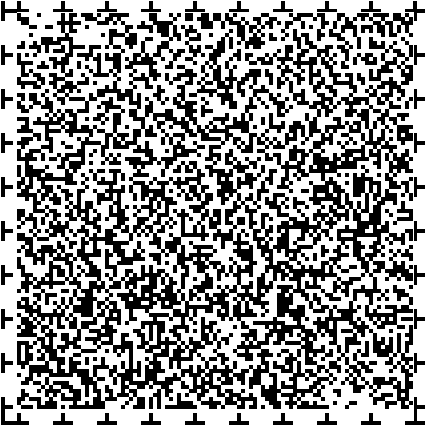
公共施設や商業施設周辺の歩道や交差点におけるバリアフリー整備

生活道路における安全対策と連携したバリアフリー整備

地区の骨格となる主要な道路のバリアフリー化を目指します。

再開発事業等のまちづくりと連携した歩道や交差点におけるバリアフリー整備

無電柱化の推進による安全で快適な歩行空間の形成

２５ページ目

新宿駅周辺拡大図

新宿グランドターミナルの一体てきな再編と連携した利便性の高いバリアフリー化を目指します。

各事業者間の連携による一体てきかつ連続的なバリアフリー整備

再編と併せた駅周辺の施設や道路のバリアフリー整備

当事者の意見を踏まえたバリアフリー整備

た言語対応や音声情報の文字化など、案内の充実

駅間の乗換や駅から周辺施設への移動など、各事業者間の連携による一体てきな移動支援

まちづくりと連携した新宿三丁目駅周辺における利便性の高いバリアフリー化を目指します。

利便性の高い乗換ルートの整備や、バリアフリールートの案内・人的支援の充実

地下通路における歩行者ネットワークのバリアフリー整備

駅周辺や商業施設など、利用者の多い施設周辺の歩道や交差点におけるバリアフリー整備

高齢者や障害者等の通行を妨げる路上等障害物の撤去、移設

た言語に対応したわかりやすい案内・人的支援の充実

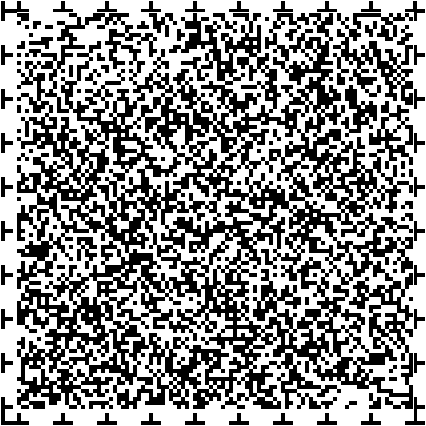
高齢者や障害者等への配慮とこころのバリアフリーの推進を目指します。

商業施設などの施設利用時における人的支援の充実

混雑する道路や地下通路での譲り合いや通行マナーの啓発

困っている人への声かけや手助けなど、こころのバリアフリーの徹底

次のページの左下にも音声コードがあります。

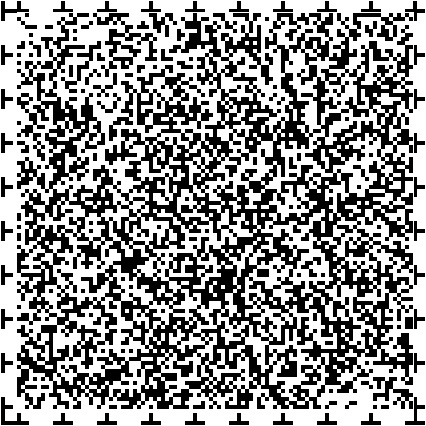
２６ページ目

このページでは、生活関連施設一覧を示しています。

一覧表の詳細について、お問い合わせの際は新宿区、都市計画部、都市計画課までご連絡下さい。

電話、０３－５２７３－３５４７

ＦＡＸ、０３－３２０９－９２２７

２７ページ目

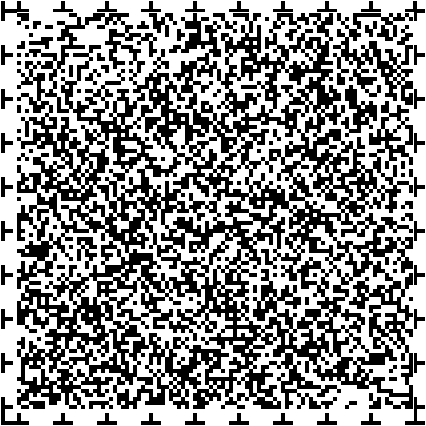
このページでは、生活関連施設一覧を示しています。

一覧表の詳細について、お問い合わせの際は新宿区、都市計画部、都市計画課までご連絡下さい。

電話、０３－５２７３－３５４７

ＦＡＸ、０３－３２０９－９２２７

次のページの左下にも音声コードがあります。

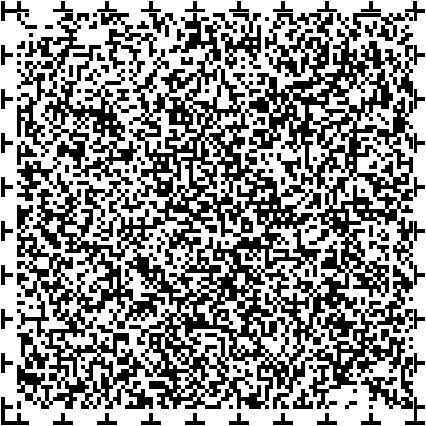
２８ページ目

このページでは、生活関連施設一覧を示しています。

一覧表の詳細について、お問い合わせの際は新宿区、都市計画部、都市計画課までご連絡下さい。

電話、０３－５２７３－３５４７

ＦＡＸ、０３－３２０９－９２２７

２９ページ目

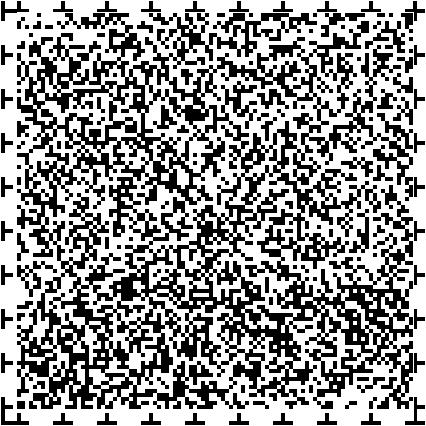
このページでは、生活関連施設一覧を示しています。

一覧表の詳細について、お問い合わせの際は新宿区、都市計画部、都市計画課までご連絡下さい。

電話、０３－５２７３－３５４７

ＦＡＸ、０３－３２０９－９２２７

次のページの左下にも音声コードがあります。

３０ページ目

第４章、移動等円滑化促進方針の実現に向けて

１、こころのバリアフリー等のソフト施策

1の1、こころのバリアフリーの促進

「こころのバリアフリー」とは、障害に対する差別や理解ブソクからくる「こころの障壁（バリア）」をなくし、障害のある人もない人も共に支え合う地域共生社会を目指すことです。区民が取り組むこころのバリアフリーや人的支援等の配慮事項について、区民に広く周知し、配慮事項に基づいた行動を働きかけることで、こころのバリアフリーの促進を図ります。

こころのバリアフリーの促進に向けた配慮事項

多様な障害者の困りごとや支援の方法を学び、理解する。

聴覚障害、内部障害、精神障害、発達障害など、外見では障害があることがわかりにくい人がいることに留意し、適切な手助けや気配りをするよう努める。

障害の社会モデルを理解し、障害者等から何らかの配慮を求められた時など、支援や周囲への声かけ等の合理的配慮を行う。

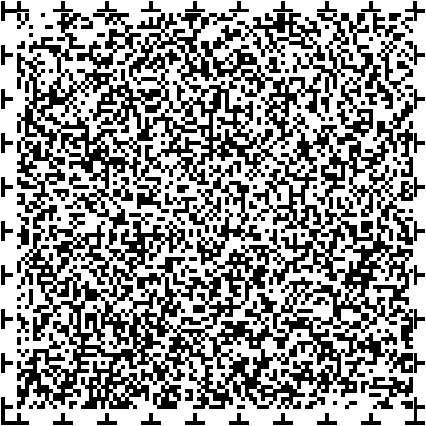
日常生活で困ったときのほか、緊急時や災害時等に周囲の手助けをお願いしやすくするヘルプカードや、聴覚に障害があることを示し、コミュニケーション方法に配慮を求める場合などに使用される耳マーク等の普及を推進する。

施設利用者や施設管理者等は、配慮に欠けた行動や対応により、高齢者、障害者等の移動や利用の支障となることがないよう努める。

その他、配慮事項の詳細について、お問い合わせの際は新宿区、都市計画部、都市計画課までご連絡下さい。

電話、０３－５２７３－３５４７

ＦＡＸ、０３－３２０９－９２２７

３１ページ目

1の2、情報提供

施設や道路のバリアフリーに関する情報については、その情報を管理する施設管理者等や自治体、公益財団法人等により個別に情報提供が行われ、経路検索等のサービスも普及しています。利用者が容易に情報を入手でき、使い勝手を良くするためには、今後の情報社会の進展を踏まえ、情報の共通化などが重要です。

情報提供については、区では現在、「新宿らくらくバリアフリーマップ」を作成し、施設や道路に関する情報提供をおこなっています。

新宿らくらくバリアフリーマップ

「新宿らくらくバリアフリーマップ」は、高齢者や障害者、子ども連れの家族などに、区内の公共施設や商業施設、公園等のバリアフリー情報を提供するオンラインマップです。PCとスマートフォンに対応し、現在地付近のバリアフリー施設や、利用したいバリアフリー情報の検索が簡単にできます。

また、バリアフリーマップを促進方針の中に位置づけることで、区は、バリアフリー法に基づき、施設管理者や道路管理者に対して、情報の提供を求めることができます。

今後も適切に情報の管理、更新を図っていきます。

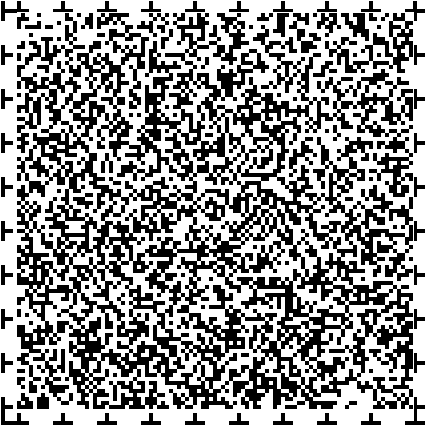
1の3、その他のソフト施策

自転車通行ルール・マナーの啓発

一部の自転車利用者が、「歩道は歩行者優先」、「車道の左側を走る」などの基本的な交通ルールを守らない等、不適切な利用をすることで、歩行者が危険を感じることや、歩行者の通行を妨害するケースがあります。

区では、全ての人が快適に道路を活用できるよう、「新宿区自転車等の利用と駐輪対策に関する総合計画」や「新宿区自転車ネットワーク計画」を策定し、放置自転車の撤去や駐リンジョウの整備、自転車通行空間の整備を推進するとともに、自転車等を利用する人の通行ルール・マナー等の向上を図るため、「自転車安全利用五則」の周知・啓発等に取り組んでいます。

次のページの左下にも音声コードがあります。

３２ページ目

２、移動等円滑化促進方針策定後の進めかた

２の１、移動等円滑化促進方針の周知啓発

促進方針に基づくこころのバリアフリーの促進や整備の働きかけなど、区民や施設管理者等へ促進方針の内容について広く周知啓発していきます。

移動等円滑化促進方針の周知啓発イメージ

区民への周知啓発に関する取組みとして、

方針に基づくこころのバリアフリー促進の働きかけ

当事者参加による視察・意見交換

施設管理者等の実施状況の情報提供などを行います。

施設管理者・道路管理者・交通管理者に対しては、

方針に基づく整備の働きかけ

当事者参加による視察・意見交換

実施状況の照会

個別協議などを行います。

施設管理者・道路管理者・交通管理者は、これを受け実施内容の検討、整備実施が必要です。

２の２、新宿区ユニバーサルデザインまちづくり条例に基づく手続きにおける関わりかた

促進方針では、生活関連施設の改修や生活関連経路上の施設の新設などについて、UD条例に基づく届出や事前協議の機会をとらえ、「本編、第２章、４の２、バリアフリー化促進に向けた配慮事項」や「本編、第３章、地域別ホウシン」で示す面的・一体てきなバリアフリー化を働きかけていきます。

UD条例に基づく手続きにおける関わりかたのイメージ

工事前の働きかけとして、以下の事項を行います。

事前協議や届出の際だけでなく、窓口相談等、計画が明らかになった時点で、早い段階から促進方針に基づく整備を働きかけます。

周辺道路からのシームレスな移動が実現するよう、必要に応じて道路管理者や交通管理者との連携、調整を働きかけます。

公共施設や大規模な施設等、施設の用途や規模に応じて、当事者参加による意見を反映する機会を設けるよう働きかけます。

工事後の働きかけとしては、

促進方針に基づいて整備した内容等を当事者参加で確認するとともに、使用開始に向けて軽微な改良等について、可能な範囲で対応を働きかけます。

３３ページ目

２の３、バリアフリー法に基づく届出制度

バリアフリー法において、移動等円滑化促進地区では、旅客施設の建設、道路の新設等であって、他の施設と接する部分について、移動等円滑化に支障を及ぼすおそれのあるものをしようとする公共交通事業者等又は道路管理者は、当該行為に着手する 30 日前までに区に届け出ることとされています。

また、区は、届出に係る行為が移動等円滑化の促進を図る上で支障があると認めるときは、その届出をした者に対し、必要な措置の実施を要請することができます。

これらの届出制度の活用により、移動の連続性の確保に努めます。

届出対象となる施設及び行為は次のとおりです。

届出対象となる施設

区内全ての旅客施設（生活関連施設）

届出対象となる行為

下記の部分の新設又は構造若しくわ配置の変更

ホームから他の旅客施設（生活関連施設）との間の経路

ホームから生活関連経路である道路（駅前広場を含む道路法による道路）との間の経路

当該施設に接する公共用通路等（道路以外）との間の経路

ホームから連続したバリアフリールートとなる出入口

届出対象となる施設

道路（生活関連経路）

届出対象となる行為

下記に接する道路（駅前広場を含む道路法による道路）の新設、改築又は修繕

旅客施設（生活関連施設）の出入口

旅客施設（生活関連施設）に接する公共用通路等（道路以外）

２の４、移動等円滑化促進方針に基づく整備の確認

促進方針策定後は、2の1から2の3に示したとおり、施設管理者等に促進方針の周知啓発を行うとともに、UD条例やまちづくり、道路整備事業等と連携を図るなど、バリアフリー化の促進に向けて取り組んでいきます。

また、バリアフリー法では、おおむね5年ごとに、促進方針に基づく整備の実施状況について、調査、分析等を行うよう努めることとなっており、高齢者、障害者等の当事者参加による意見交換などを活用し、適切に進めるとともに、必要に応じて促進方針の見直しをおこなっていきます。

次のページの左下にも音声コードがあります。

裏表紙

この印刷ぶつは、業務委託により、２,０００部印刷製本しています。その経費として１部あたり２００円（税別）がかかっています。ただし、編集時の人件費等は含んでいません。

新宿区移動等円滑化促進方針【概要版】

令和３年１１月　発行

編集・発行

新宿区　都市計画部　都市計画課

東京都新宿区歌舞伎町１－４－１

電話、０３－５２７３－３５４７

印刷ぶつ作成番号

２０２１の６の４００１

新宿区移動等円滑化促進方針【概要版】

以上